

東西融合医療セミナーの報告

一般社団法人老人病研究会
共催 新宿漢方クリニック

東西融合医療セミナーは、今年度の課題を「未病大全」とし、全4回分のサブタイトルを設けました。そしてセミナー受講を希望される方（一般の方、鍼灸師、医師、その他医療スペシャリスト）に、面白さと難しさを備えた中医学を良く理解して頂けるよう予習の機会（事前授業）をお願いしたのが特徴です。

今年度の大課題：未病大全

第9回 3月18日（日） 未病の定義・診断・予防・治療

第10回 6月17日（日） 未病とメンタル疾患（懇親会予定）

第11回 9月9日（日） 未病とがん、認知症について

第12回 12月16日（日） 未病と難病について（懇親会予定）

東西融合医療セミナー：<http://tcm-kampo.com/news.php>

* 自己紹介から開始：

〔漢方と鍼灸施術を始めました〕 川並汪一

定年間近のある日、父親が家庭医として多忙な日々を送っていた事実を偶然に思い出しました。「あれ～、私は医師免許証をどこかへ置きっぱなしだ。」と気づいたのです。

それから同志と共に、認知症 Gold-QPD 育成講座をたちあげ中医学鍼灸の重要性に注目して10年ほどになりました。その間、次のことが私の信条となりました。

「中医学漢方を深く理解することで西洋医学と鍼灸治療のより高い価値を理解できる。

それにより、家庭医そして鍼灸師として、患者さんのためにより一層お役に立てる。」

〔目的と対象受講者〕

当セミナーは、一般の方さらにその他の医療スペシャリストを対象に立案しております。漢方と鍼灸にぐっと親しんで頂けると思います。さらに、病気への取り組み方が広がるため、高齢社会での貢献度が格段に向上します。

〔第9回東西融合医療セミナー（開設3年目）の内容報告〕

〔Gold-QPDmooC〕と同じように、その予習版〔WE-MEDSmooC〕: West-East Medical Seminar のつまり massive open online course の立ち上げを検討中です。

~~~~~

第9回東西融合医療セミナー予習版の内容要約

**予習1**：中医学漢方・鍼灸を学ぶ同志へ（1）

未病大全の講座開設に当たり重要な注意事項を述べておきます。中医学は本来すべて漢字で表現されています。長い歴史を経るうち、それぞれの漢字には日本独自の解釈による強い印象が根付いています。これが初心者にとって大きな問題なのです。

たとえば、「神(しん)」とか「神明(しんめい)」は、中医学では決して「神(かみ)」“god”や「明神(みょうじん)」“shrine”ではありません。それは“心の働きや活動”を意味する精神活動のことです。そのような側面から中医学漢方を学ぶ諸君には次のことをお願いします。

**基本的心得**

- 1) 漢字用語の意味は日本語に当てはめない。出来れば中医学英語に置き換え理解する。
- 2) 陰陽五行、五臓六腑の中医学理念はこれまでの西洋科学と全く異なる世界観です。宇宙から身体までを一体化した天人合一、統一体感としての科学理論（哲学）です。
- 3) サッカー選手がハンドボールを学びはじめる時に憶える『懸念の心』を維持して下さい。

以下省略

**予習2**：中医学漢方・鍼灸を学ぶ同志へ（2）

**黄帝内経**；神農本草経は古くとも色あせず、未だ中国伝統医学の根本思想として生き残っている。これらは「――経」とはいいながら「お経」=経典きょうてん（scripture, doctrine）ではなく、賢人の著書けいてん経典である。黄帝内経の英語訳は、(Yellow Emperor’s Internal Classic)とされることから、むしろ内科学大系といってもよい。

**陰陽五行論 (Yin-Yang Five Elements Theory) ; (中医学の基本骨格)**

太陽が陽、月が陰と定義し、背部体表が陽、腹側体表が陰と万物を陰陽に分類している。中医学で病気を表現するとき「陰」という用語が頻繁に使われる。陰虚、肝陰虚などをいうときの陰はほとんどが水分、体液の巡りや量が少なくなることを示唆する。

『**五臓六腑 (肝心脾肺腎、胆小腸胃大腸膀胱三焦)**』(five viscera and six bowels) のすべてに気(後述)が存在する。五臓それぞれが気虚に陥ると未病が発生し、様々な症状に連なる。この点で未病の定義が、西洋医学の未病と大きく異なってくる。

五臓は裏(主)で六腑は表(従)として、相互に干渉しながら生命活動を営む。

以下省略

~~~~~

第9回セミナーの講演内容

健康とは、

「健康とは身体的・精神的・心理的・社会的に良好な動的状態であり単に病気や虚弱を
持ち合わせないことではない。」

Health is a dynamic state of complete physical, mental, spiritual and social well-being, and not merely the absence of disease or infirmity.

西洋医学の未病とは、

「心身の不調を感じながら各種検査でも病名を特定できない健康と病気の狭間」とみなされ病気ではない。診断が確立しないので治療法を見出すことも出来ない。そのため未病は経過を観察するか、漠然とした予防のための試みをするに留まっている。現在の医学的常識では、「診断できない病態に治療を施すことは出来ない」からです。

東洋医学（伝統中医学）の未病とは、

問診、聞診、視診、舌診、脈診などで体調と症状を診て、気血陰陽のアンバランスを診断する。つまり症状群診断として弁証すると、未病患者はほぼ虚証（弱点となるアンバランス症状）とみなせ、そのまま治療法も決まってくる。

重要な留意事項と将来展望

健康に見える患者も弁証論治で解釈すると虚証として把握できることが多い。西洋医学的に未病とみなせる多くのメンタル疾患（とくに気分障害；適応障害、パニック障害など）は漢方と鍼灸治療がぴったりと適合する。いわゆる難病も中医学的に見直すと西洋医学で出来ない治療上の盲点・欠陥を補うことが出来る。

以下省略

（3月18日開催セミナーの添付写真）

写真1：鐘良辰中医師による講義

写真2：未病システム学会福生吉裕理事長のコメント（右端：黒川胤臣当社団理事）

写真3：セミナー終了後の活発な討議（左から）

安永大三郎氏（シルクバイオ研究所社長）、田合俊孝氏（C2B International 社長）、川並汪一、福生吉裕氏一人おいて鐘良辰氏（新宿漢方クリニック中医師）。

写真1



写真2



写真3

